

ブラック企業



(写真 上: 3.11反原発福島行動21を闘う労働者・農民 下: 21年春闘を闘う動労千葉)

全ての高校生は7・4国鉄全国集会に集まろう！

国鉄闘争全国運動 7・4全国集会

7月4日(日) 午後1時30分～
千葉県市民会館大ホール
(JR千葉駅より徒歩7分)
入場料: 計500円(資料代含む)



呼びかけ:
国鉄1047名解雇撤回闘争を
支援する全国運動

全学連

全日本学生自治会総連合

E-mail : mail_cn@zengakuren.jp

Twitter : @zengakuren

HP : zengakuren.jp

Address : 〒132-0025 東京都江戸川区松江1-12-7

こんな社会に、今こそ声をあげよう！

「ブラック企業」という言葉があります。低賃金や過重労働、セクハラ・パワハラなどで労働者のことを追い詰めるような企業のことです。2013年に新語流行語大賞を受賞した比較的新しい言葉であるにも関わらず、ほとんどの人に通じる言葉となりました。この言葉がこれだけ多くの人に受け入れられたのは、それだけ不安定な雇用状態や低賃金に追い込まれている労働者が数多くいるということです。

今日のコロナ禍のもとで、必死に社会を支えているのは「エッセンシャルワーカー」と呼ばれる、重要な仕事

を担っているにも関わらず低賃金労働を強いられている労働者であることが明らかになっています。コロナ禍で文字通り命がけで仕事に当たる労働者があることが賃下げ、首切りの攻撃を受けているのです。学生においても、コロナ禍における金銭的理由から大学の退学を検討する学生が20%を超え、全ての労働者・学生の怒りが渦巻く一方で、菅政権は今年の夏にはオリンピックをなんとかでもやるとほざき、小中学生を動員する準備を着々としている。こんな矛盾だらけの社会に明日はありません。

今こそ労働組合を蘇らせよう！

しかし、私達はそのような社会にただ絶望することしかできない存在ではありません。アメリカやフランス、香港、チリ、ミャンマーなど、諸外国で巻き起こっている闘いは言わずもがな、大きな反響を引き起こした医療労働者やコンビニ労働者・オーナーのストライキ、大学入試への民間試験導入反対・入試「改革」反対の高校生・教育労働者の闘い、京都大学の新自由主義大学粉碎の闘いなど、日本においても巨大な怒りと闘いが巻き起こりつつあるのです。

労働者・学生が団結すればこの社会は必ず変えることができる。そして、その団結を蘇らせるためには、1047名の解雇撤回を今こそ勝ち取り、40年間の闘いと団結を全ての場所で蘇らせること。それこそが一切の鍵を握っていると言っても過言ではありません。

この社会に不満を持っている全ての皆さん、とりわけ高校生の皆さん！高校、大学を卒業したら一生ブラック企業に絞り尽くされ、年金すら支給されるのぞみはない。こんな社会なんてぶち壊すしかない！今こそ反撃の狼煙を上げるときです。御用組合と呼ばれる闘わない労働組合を乗り越え、闘う労働組合をなんとしても蘇らせることができるのか、それに私たち学生の、全ての高校生の未来がかかっているといっても過言ではありません。学生も学園で、キャンパスで、街頭で闘いを作り出していきましょう。

社会に対して不満を持つ青年・学生はこの集会に集まり、互いにつながろう。闘う労働組合を蘇らせ、すべての場所から声をあげていく。その第一歩として、今回の国鉄全国集会にぜひ共に参加してください！

1047名解雇撤回闘争とは？

今からおよそ40年前の1987年、時の総理大臣中曽根康弘が今のJRの前身である国鉄（日本国有鉄道）を7つの民間会社に分割するという出来事がありました。当時、最強の労働組合であった国労とそのナショナルセンターであった総評、総評を支持基盤としていた社会党（現在の社民党）を解体することがその目的でした。しかし、分割民営化にあたって、国鉄から全ての労働者がJRに採用されたわけではありませんでした。最盛期には40万人以上いた労働者が分割民営化の過程の首切りで20万人近くまで労働者が減らされ、分割民営化

の前まで残った労働者の中にも、国鉄からJRに採用されず、名義上の後継団体である国鉄清算事業団へと送られる人もいました。清算事業団は労働者を追い出すために危険かつ過酷な労働を強い、清算事業団に送られた7000人近い労働者は最終的に全員が解雇される1990年までに1047名にまで減ってしまいました。1047名解雇撤回闘争は戦後最大の労組破壊攻撃である国鉄分割民営化と真っ向から闘い労働運動を再生させる闘いでもあります。未来の労働者である高校生・学生も1047名解雇撤回闘争を共に闘って行きましょう。